

授業科目 老年看護学実習 I	科目概要・形式 3 単位 135 時間 実習科目	配当年次 博士前期 1 年次 後期開講	オンライン参加 不可
科目責任者	出貝 裕子		
科目担当者	出貝 裕子, 長内 志津子, 花田 麻由美		
1. 科目のねらい・目標 急性期病院に入院している高齢者を受持ち、指導教員や実習指導者のスーパービジョンを受けながら急性期の高齢患者に特有な専門的なアセスメントおよび care と cure の統合を意識した高度な看護実践能力を修得する。 到達目標 [1] 複雑な健康問題を有する高齢患者とその家族を包括的にアセスメントできる。 [2] 高齢患者とその家族に対し、care と cure の統合を意識した必要な援助を自立して実践できる。 [3] 高齢患者への援助の実践にあたって、スタッフへ自己の思考を説明しスタッフを巻き込みながら協働することができる。 [4] 老人看護 CNS を目指すものとしての自己の課題と課題解決の方策を考察し説明できる。 [5] 実習計画の立案から実習指導者との相談・調整や看護実習の実践、実習の振り返りや自己洞察に主体的に取り組むことができる。			
2. 授業計画・内容 <実習の展開> 実習要項参照 1) 急性期病院に入院している高齢患者 2 事例を受け持ち、看護実践を展開する。看護実践する上で、必要に応じて病棟スタッフ及び多職種と積極的に連携をとる。 2) 実習指導者、教員のスーパービジョンを受ける。実習指導者とは毎日振り返りの時間をもち日々の疑問や改善点を明らかにして翌日の実習に臨む。教員とは定期的に対面あるいはオンラインで面談し、実習の進捗を報告し、必要な助言を受ける。 3) 実習指導者の協力を得て、受け持ち患者に提供されている治療の現状及び見通しについて主治医と意見交換する機会をもち、現在の身体状況や治療に関する理解を深める。治療に対する理解をケアに活かし、care と cure の統合を意識した実践に結びつける。 4) 受け持ち患者の病態や症状に応じて、各実習指導者の専門性を考慮したうえで、積極的に助言を求め、より専門的な判断・実践ができるように活かす。 5) カンファレンスは履修者自身が企画運営し、実習指導者と教員の参加の下で行う。カンファレンス資料は事前に配布・配信することとする。 6) 実習終了後、事例のケースレポート及び実習課題に基づくレポートを作成して提出する。			
3. 教科書・参考書 専門科目で使用した教科書、授業資料			
4. 成績評価方法 評価は、実習達成度について教員と実習指導者との協議を踏まえ、かつ実習及び事例報告を通じて、担当教員が単位認定を判定する。 評価項目：実習目標の達成度（実習記録）、実習レポート、実習に対する態度・姿勢			
5. 受講要件 なし			
6. 社会人学生に対する配慮			
7. その他			